III．栃木県藤原町　鬼怒川温泉

従来型観光地での地域の魅力の再発見または創出と、
それを活かした集客力回復とまちの再構築に関する
調査報告書
（栃木県藤原町　鬼怒川温泉）

＜　目　次　＞

Ⅰ．鬼怒川温泉の課題 1

Ⅱ．鬼怒川温泉再生の方向 4
１．短期的な再生プログラムの確立とその実施体制の構築
２．マイナス要素の早期克服とプラス要素の持続的な強化
３．温泉街の分節によるきめ細かな施策の展開
４．継続的な情報収集とフォローアップ

Ⅲ．鬼怒川温泉再生の施策 9
１．風光明媚を生かし、温泉街の街並みを再生する景観の誘導
２．温泉街らしい賑わい・風情の再生
３．さびれた印象を与える遊休地、遊休施設の修復・活用
４．宿泊客のニーズに応え、街づくりに貢献する旅館ホテルの改革
５．様々な周遊観光が楽しめる環境づくり
６．インフォメーション機能の充実
７．温泉街の回遊ネットワークの整備
８．鬼怒川温泉駅前の玄関口にふさわしい賑わいの再生
９．旧温泉街の風情と賑わいの再生
10．鬼怒川公園駅前の賑わい形成
■施策図

〇参考情報 15
１．検討体制
２．検討スケジュール
３．委員会名簿
４．フィールドワーク実施概要

Ⅰ．鬼怒川温泉の課題

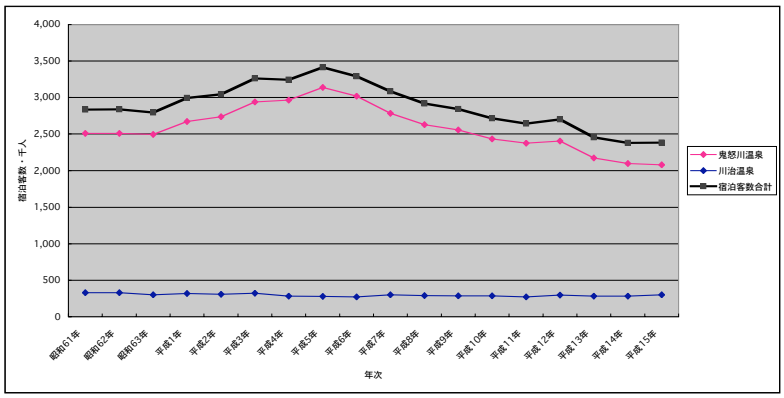
１．減少し続ける宿泊客数と、温泉街再生施策の立ち遅れ

・鬼怒川温泉の宿泊客数は、1980ー90 年代の景気高揚とともに旅館ホテルの大型化や新規立地が進み、1993 年のピーク時には年間 341 万人を数えた。

・しかしその後は、景気の低迷や団体旅行の衰退などの影響で減少に転じ、その傾向が続いている。

・こうした状況に対して、温泉街再生の必要性が叫ばれ、各種の対策が検討されてきたが、宿泊客数の減少を止め、上昇に転じさせるような成果は上がっていない。

■鬼怒川温泉の宿泊客数の推移



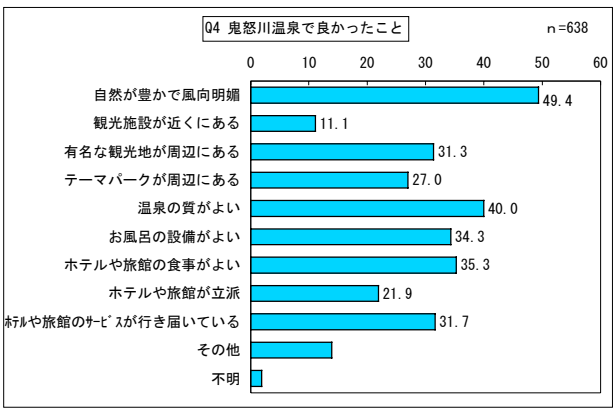
２．十分に生かされていない「風光明媚」

・顧客へのアンケートによる鬼怒川温泉の魅力の第１位は、「自然が豊かで風光明媚」であった。

・一方、旅館ホテルの経営者が考える鬼怒川温泉の強みでは、風光明媚は、交通の便、全国的な知名度、周辺の観光地に次ぐ第４位に留まり、認識にややズレが見られる。

・風光明媚を象徴する鬼怒川の渓谷美は、川沿いに林立する大型の旅館ホテルに遮られ、主な眺望スポットは橋の上となっている。

■鬼怒川温泉の魅力（宿泊者アンケート）



■渓谷沿いに立ち並ぶ旅館ホテル

（くろがね橋より）

（ふれあい橋より）

３．失われた「温泉街らしい風情」

■渓谷沿いの廃業・休業ホテル

■空店舗や空き地が目立つ温泉街

・顧客へのアンケートでは、大半の人が温泉地に求めるものは「温泉街らしい風情」である。

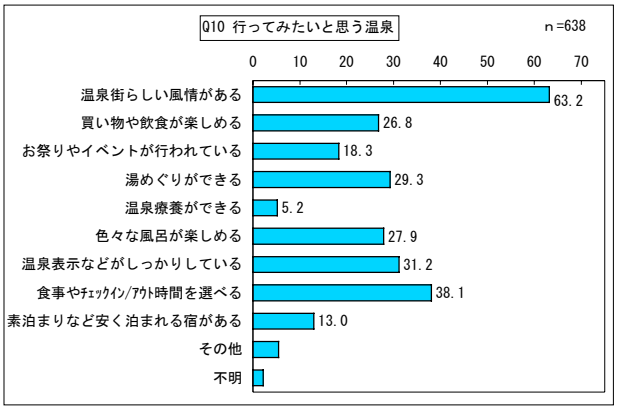
・しかし鬼怒川温泉の現状は、顧客へのアンケートで「街に活気がない」「さびれている」との指摘を多く受けるほど、人通りが少なく、空店舗等が目立つ状況である。

・旅館ホテルの経営者が考える鬼怒川温泉の弱みでも、「風情に欠ける」が第１位となっている。

・専門家による評価では、共同湯、文化・展示施設、イベント・催し、情緒のある宿泊施設などがマイナス要素として指摘されている。

・空店舗活用の社会実験では、開設したゲームコーナーに多くの人が訪れ、温泉街らしい賑わいを求めていることが裏付けられた。

■行ってみたい温泉（宿泊客アンケート）

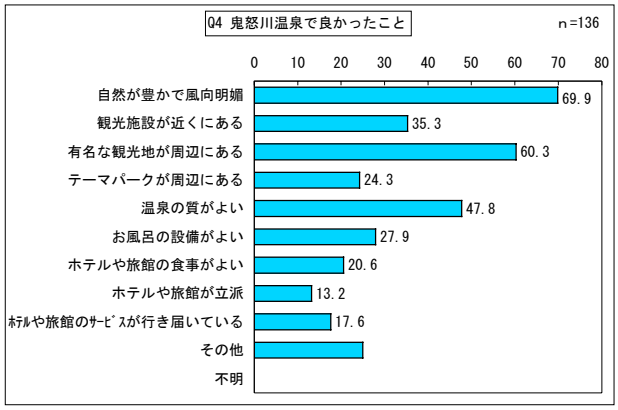


・かつては鬼怒川温泉にも旧温泉街地区を中心に賑わいある商店街が形成されていた時期があったが、旅館ホテルの大型化や温泉街の南北への拡大とともに温泉街の風情は失われてきた。

・また、宿泊客数の減少の中で、休業・廃業する旅館ホテルが生じ、一部は廃墟化するなど、こうした傾向に拍車をかけている。

４．個人客のニーズに十分応えられていない旅館ホテル

■鬼怒川温泉の魅力（台東区アンケート）

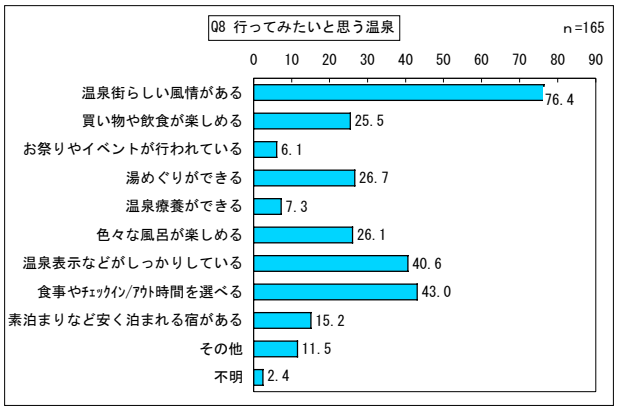


・東京での潜在的な顧客へのアンケートでは、旅館ホテルに対する肯定評価のポイント数は、実際の宿泊客に比べて１／２以下となっている。また年代別で見ると若者より高齢者の評価が高くなっている。

・鬼怒川温泉の旅館ホテルが提供

している魅力が、顧客の嗜好の変化に追いつけていない状況が伺える。

■行ってみたい温泉（台東区アンケート）



・具体的に旅館ホテルに求めるものとしては、宿泊客・潜在的顧客とも、「食事を選べる」「食事は量や品数より質」「チェックイン／チェックアウト時間を選べる」などの指摘が多い。全国的な調査でも旅行目的の上位に「保養」がランクされており、ゆったりとくつろぎ、好みのものを食べたいという傾向が伺える。

・旅館ホテルには、顧客の嗜好の変化と多様化に応えるきめ細かなサービスの提供が求められている。

５．周遊観光を支える環境の不備

・顧客へのアンケートでは、風光明媚以外の魅力として、東京からの交通の便、日光をはじめとする周辺の観光地や観光施設などが挙げられている。

・福島空港利用ツアーの社会実験では、日光観光は遠方の人の旅行目的の第一となることも明らかとなった。

・鉄道利用の利便性は日光地域の観光の特色であり、公共交通機関を利用する旅行は環境問題への社会的要請が高まる中で今後望まれる姿である。

・しかし、鬼怒川温泉ー日光を結ぶ路線バスがないこと、乗り捨て無料のレンタカーなどの既存施策の広報が不十分なことなど、鉄道利用者が鬼怒川温泉を拠点に周辺地域を周遊するための２次交通施策には改善の余地が多い。

・一方、自動車利用者に対しては、一般駐車場がほとんどないなど、日帰り観光客や立ち寄り客の利用環境の整備が遅れている。

６．不十分な情報提供

・温泉街の情報マップがわかりやすく提供されていないこと、一部で行われている旅館ホテルの湯めぐりの情報が普及していないこと、日光地域内の２次交通施策が十分広報されていないことなど、観光客が必要とする情報の集約と的確な提供が為されていない。

・鬼怒川温泉や旅館ホテル等での的確な現地情報の提供、インターネット等でのきめ細かな事前情報の提供などが求められる。

Ⅱ．鬼怒川温泉再生の方向

１．短期的な再生プログラムの確立とその実施体制の構築

・宿泊客の減少が続き、有効な対策がなかなか打ち出せない状況を打開するためには、中長期的な温泉街のあり方やその実現施策を視野に入れつつ、短期的な施策を確実に展開し、再生の端緒を掴み、関係者の意欲を高めていくことが必要である。

①再生プログラムの確立

・諸課題に対応する各種施策について、当面実施すべきもの（実施できるもの）、短期的に取り組むべきもの、中長期的に実施すべきものなどに区分し、プログラムとして確立する。
・プログラムの策定にあたっては、効果をより高めるために、施策間の連携に十分配慮する。

②実施体制の構築

・再生プログラムの強力な推進には、実行力のある推進体制の構築が不可欠である。
・これまでは案件毎に組織され、事後のフォローアップが不十分であった各種組織を改め、地域再生全体、テーマ毎、地区毎など所掌を明確にし、体系的で持続的な組織を構築する。
・また限られた予算を有効に利用するために、施策全体を俯瞰した上で、公共と民間の役割分担、民間への支援のあり方等、資金の配分を適正化する。

２．マイナス要素の早期克服とプラス要素の持続的な強化

・鬼怒川温泉は、全国有数の規模を擁する温泉地であり、首都圏を中心に多くの人達に親しまれてきた温泉地である。小規模な温泉地とは異なり、秀でた一つの魅力だけでは規模を維持していくことは困難である。
・課題に掲げた各種のマイナス要素を丹念に克服し、プラス要素を強化して、再び多くに人々に満足を与え、愛される温泉地に再生していく必要がある。
・特に当面及び短期の施策展開の視点として、マイナス要素克服が重要である。

①風光明媚な自然環境を維持・活用し、温泉街らしい街並みを育てる景観の誘導

・短期的には、鬼怒川沿いの遊歩道など渓谷美を楽しむ環境整備を進めるとともに、斜面林の除草や育成など渓谷の美化に努める。
・中長期的には、釣り場の復活等渓流の活用、河川沿い非建築ゾーンの指定や斜面林の再生、容積規制（ダウンゾーニング）や建築物形態規制の導入、温泉街らしい街並みの誘導整備などにより、国立公園内の景勝地として自然景観優位の景観形成を目指す。

②湯めぐりやそぞろ歩きが楽しい、温泉街の賑わいと風情の再生

・短期的には、駅前広場や道路の改装整備、空き店舗活用・手づくり行灯・橋上イベントなどの活動、旅館ホテルの内湯やロビー空間の一部開放等を連携して、まちに出る楽しさを演出する。
・中長期的には、外湯・共同湯の整備、魅力ある店舗の育成、旅館ホテル内の物販飲食サービスのアウトソーシング、拠点施設（コンベンション施設、劇場、博物館など）の導入などにより、滞在するのが楽しい温泉街を再構築する。

③さびれた印象を与える遊休地・遊休施設の修復・活用

・短期的には、休業・廃業した旅館ホテルの解体更地化、破損した看板や工作物などの除去改修など荒廃したイメージの払拭に努めるとともに、緑化やイベント空間への活用などの暫定利用を推進する。
・中長期的には、まとまった規模のものについては戦略的な拠点施設等への活用を図る一方、渓谷沿いのものは景観形成の資源ととらえ適切な利用誘導を図る。また市街地内の空店舗など小規模なものは、賑わい再生につなげる活用を図る。

④多様な宿泊客のニーズに応え、温泉街とともに発展する旅館ホテルの改革

・短期的には、観光が主産業であるとの認識のもと、湯めぐりへの参画、ロビーの開放や喫茶店営業の実施など、既存の施設・空間を活用して人々のそぞろ歩きを誘発し、温泉街の賑わい形成に貢献する。

・中長期的には、多様な宿泊客に対して、それぞれの旅館ホテルが個性を発揮して、宿泊客に喜ばれる特色のある風呂や料理、やすらぎのある空間、きめ細かな接客サービスなどホスピタリティあふれる旅館ホテルに変革していく。一つの選択肢として、温泉を活用した健康、癒しのためのサービス・メニューを充実する。

⑤日光地域を中心に様々な周遊観光が楽しめる環境づくり

・短期的には、日光地域内の周遊促進を図る交通環境の改善やその周知を図るとともに、近傍の観光地や景勝地を訪れるミニツアーの実施など、鬼怒川温泉を拠点とした楽しみの提供を図る。

・中長期的には、行政、町民、旅館ホテル経営者、交通事業者など関係者の合意形成を図りつつ、日光地域が一丸となって、魅力ある周遊観光メニューの提供やインバウンド対策など、広域交流の促進に持続的に取り組んでいく。

⑥鬼怒川温泉の魅力を伝えるインフォメーション機能の充実

・短期的には、鬼怒川温泉内の各種情報の収集体制を整備するとともに、駅前などのインフォメーション拠点の整備、雑誌やインターネットなどでの適切な情報提供体制の構築を図る。

・中長期的には、利用者の評価に基づいた情報の取捨選択など、情報の質の向上に取り組む。

３．温泉街の分節によるきめ細かな施策の展開

・旅館ホテルの大型化や温泉地の面的拡大により失われた温泉街らしい風情を取り戻すために、温泉街を子供や高齢者でも歩いて回れる程度の規模に分節する。
・地区毎の温泉街形成の経緯や資源を踏まえながら、旅館ホテルや店舗などの関係者が密度の高い協議を重ねながらきめ細かな整備を実現し、地区毎に温泉街の個性を顕在化していく。
・将来的には各地区が「独立した温泉街」として認知され、川治温泉も含めて「鬼怒川・川治温泉は４つの個性的な温泉街を持つ」ように再生を進める。

①鬼怒川温泉駅周辺地区

・利便性が高く大規模な来客にも対応でき、鬼怒川の渓谷美も楽しめる「エンターテインメント型温泉街」をめざす。

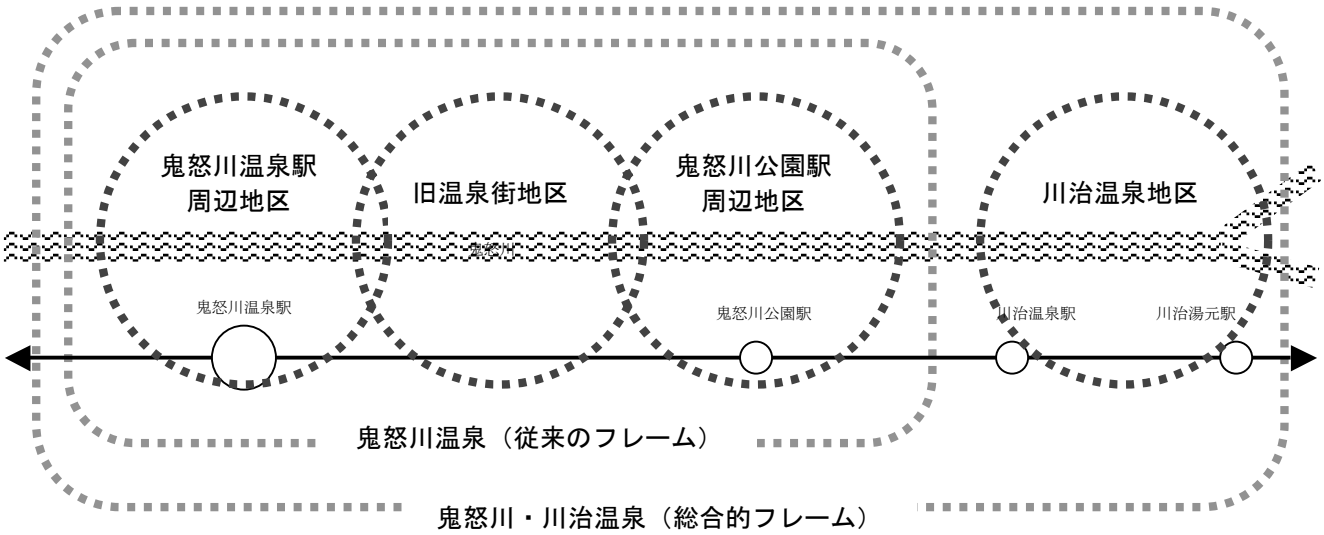
②旧温泉街地区

・建物と渓谷美のバランスを保ちながら、かつての鬼怒川温泉が持っていたヒューマンスケールの街並みを再生する「ふれあい型温泉街」をめざす。

③鬼怒川公園駅周辺地区

・現在のあまり高くない建物の密度を生かして、鬼怒川や山並みを身近に感じながらのんびりと過ごせる「高原リゾート的保養地」をめざす。

■地区区分の概念図



４．継続的な情報収集とフォローアップ

・温泉街の再生を確実なものとしていくためには、施策実施の成果を客観的に評価するとともに、時代とともに移り変わる顧客のニーズを的確に把握し、再生プロクラムを適宜見直していく必要がある。

①アンケート調査等の情報収集の継続的な実施

・本調査で実施した各種アンケート調査では利用者の生の声を聞くことができたが、実施時期がオフシーズンであり、通年的な鬼怒川温泉の利用者の意向を反映しているとは限らない。

・また、各種施策の展開が利用者にどう受け止められているかを確認し、施策の効果や適切性を判断することも重要である。

・季節毎、また経年的にアンケート調査等の情報収集を続け、常に利用者のニーズに応える温泉街を目指していく必要がある。

②施策実施の評価、顧客ニーズの変化に応じたフォローアップ

・温泉街再生の各種施策は、利用者に喜ばれ、多くの利用者が集まることが目的である。

・したがって、施策実施の結果を冷徹に見つめ、足らざる所を補い、新たな方向を模索するフォローアップ体制が極めて重要である。

・宿泊客の回復の兆しが見えるなど施策の効果が上がっても、社会の変化や利用者のニーズの変化は未来永劫続くものであり、たゆまない改革が必要である。

Ⅲ．鬼怒川温泉再生の施策

１．風光明媚を生かし、温泉街の街並みを再生する景観の誘導

名　称		目標設定と実施内容			事業主体
		当面：～２・３年	短期：～５年	中長期：～１０年	
		景観の重要性の共有	**景観形成の始動**	**本格的な景観形成**	
景観法の導入		景観計画策定に向けた調査 景観形成に向けた地区毎の地元検討の開始	景観計画の策定	景観計画区域によるマクロな景観の誘導 景観地区等の導入による地区毎の景観の誘導	町
景観形成の実施	渓谷美の維持・育成	既存斜面林の除草、育成	川沿いの空き地への植栽等の修景 川面の総合的なライトアップ	遊休地・遊休施設等を活用した斜面緑地の再生 必要に応じて容積規制などの実施	町
	温泉街らしい風情のある街並み	（各地区毎に検討・実施することとし、各地区毎に記載）			民間 町支援
	会津西街道などの沿道景観整備		沿道の修景・美化の実施	セットバック等による歩行環境改善等を継続	民間 町支援

２．温泉街らしい賑わい・風情の再生

名　称		目標設定と実施内容			事業主体
		当面：～２・３年	短期：～５年	中長期：～１０年	
		湯めぐりの実現 賑わい形成の準備	**外湯など拠点施設の整備**	**賑わいの増幅**	
外湯・湯めぐりなど温泉の楽しみの提供		**旅館ホテルの内湯開放による「湯めぐり」の実施とＰＲ**	旅館ホテル等への「足湯」の整備		民間
		駅前広場への足湯整備 鬼怒川公園岩風呂のＰＲ	**外湯の整備**（水明館跡地、鬼怒川温泉駅前、滝見橋周辺など）	福祉・癒し観光対応施設の検討	町 (公設民営等)
拠点施設の整備	車対応拠点施設（徳泉閣跡地）	**用地交渉、整備計画策定 施設整備**（一般駐車場、インフォメーションなど）			町 (公設民営等)
	くろがね橋拠点施設 (水明館跡地周辺)	**用地交渉 整備計画策定**	施設整備（外湯、緑地、見晴らし公園、駐車場など）		町 (公設民営等)
	その他			文化施設等の検討	町
公共空間の賑わい利用のルール化		**関係機関との協議、明文化**			町

３．さびれた印象を与える遊休地、遊休施設の修復・活用

名　称	目標設定と実施内容			事業主体
	当面：～２・３年	短期：～５年	中長期：～１０年	
	方策の検討、対策の着手	**方策の実施、活用の着手**	**本格的な活用**	
敷地条件整序（権利関係整理、更地化等）	**方策検討、実施体制整備(一時買取による方法等)**	敷地条件整序の実施		町
廃業・休業旅館等の大規模なもの（鬼怒川右岸沿いに集中）	**車対応拠点施設の整備（別掲）** 修景・美化（整頓、清掃、緑化など）	くろがね橋拠点施設の整備（別掲） 見晴らし広場等の暫定利用	景観に配慮た活用促進（緑地化、一般駐車場、飲食店等低密度な利用など）	町・民間
空店舗等の小規模なもの	修景・美化（古看板撤去、整頓、清掃など）	暫定利用（緑化、一般駐車場など）		町・民間

４．宿泊客のニーズに応え、街づくりに貢献する旅館ホテルの改革

名　称	目標設定と実施内容			事業主体
	当面：～２・３年	短期：～５年	中長期：～１０年	
	改革の始動	**改革の本格化**	**改革の継続**	
旅館ホテルの街づくりへの貢献	ロビーの開放や喫茶店営業の実施による店舗不足の補完	旅館ホテルと商店街の関係に関する地元検討	旅館・ホテルの飲食・物販機能の外部化など、より積極的な施策の実施	民間
特色ある旅館ホテル	（各旅館ホテル毎に個性ある施設づくりやサービスの実施に向けて改革を実施）			民間

５．様々な周遊観光が楽しめる環境づくり

名　称	目標設定と実施内容			事業主体
	当面：～２・３年	短期：～５年	中長期：～１０年	
	交流促進方策の検討	**交流促進の始動**	**交流の充実**	
ツアーの実施	**ミニツアー実験の実施**	鬼怒川温泉内のミニツアーの充実（五橋めぐり(既存)、社めぐりなど） 日光地域内、会津地方を巡るツアーの企画・実施	ツアーガイドなど人材の育成・スキルアップ	町・民間
福島空港利用	ツアーバス型（沿道観光地を巡回）の福島空港利用実験の検討			町
インバウンド対策	多言語表記、通訳など受け入れ態勢の検討・実施			民間 町支援

６．インフォメーション機能の充実

名　称	目標設定と実施内容			事業主体
	当面：～２・３年	短期：～５年	中長期：～１０年	
	情報発信強化の始動	**情報発信の充実**	**情報発信の継続**	
情報発信対策	**情報の一元化、評価、発信方策の検討** **既存空間を活用した情報発信の強化**	各地区のインフォメーション拠点の整備		町
バリアフリーマップの作成	**バリアフリーマップの作成**			町

7．温泉街の回遊ネットワークの整備

区　間	名　称	目標設定と実施内容			事業主体
		当面：～2・3年	短期：～5年	中長期：～10年	
		回遊路の形成	**回遊路の高質化**	**回遊路の拡大**	
鬼怒立岩大吊り橋	■ 鬼怒立岩大吊り橋		橋梁整備		町
（右岸）	■ 歴史の路遊歩道		遊歩道整備		町
（左岸）	△ 町道326, 324号線		遊歩道化整備		町
立岩橋	○ 立岩橋 (R121BP)			バリアフリー化改修	県
（右岸）	■ 河川遊歩道		遊歩道化整備 (現東京電力管理用道路)		町
	○ 国道121号BP			バリアフリー化改修	県
（左岸）	○ 町道Ⅰ-4号線他	歩道等高質化整備			町
	△ 町道306号線	遊歩道化整備	バリアフリー化改修 河原への昇降路整備	歩行者橋の整備	町
	△ 町道312号線		歩車共存化整備		町
ふれあい橋	■ ふれあい橋		バリアフリー化改修 （左岸昇降部）		町
（右岸）	△ 町道Ⅰ－5号線 (本町)		歩車共存化整備		町
	○ 国道121号BP			バリアフリー化改修	県
（左岸）	■ 河川遊歩道	**遊歩道化整備 (現東京電力管理用道路)**			町
	■ くろがね橋左岸橋詰	**河原への昇降路整備 橋詰広場整備**			町
	○ 町道Ⅰ－4号線			バリアフリー化改修	町
	× 会津西街道 (R121)	歩行者安全対策	歩道整備		県
くろがね橋	△ 町道Ⅰ－5号線 (くろがね橋)		左岸歩道整備 (かじか坂)		町
（右岸）	△ 町道406号線 (旭町,花見坂)		歩車共存化整備		町
	△ ロープウェイ周辺	歩車共存化整備			町
	○ 国道121号BP			バリアフリー化改修	県
（左岸）	× 会津西街道 (R121)	歩行者安全対策	歩道整備		県
滝見橋	■ 滝見橋 (町道514号線)		右岸取付部歩車共存化 左岸公園整備		町
（右岸）	○ 国道121号BP			バリアフリー化改修	県
	■ 河川遊歩道	**遊歩道・河川公園整備**			町
（左岸）	○ 会津西街道 (R121)			バリアフリー化改修	県
鬼怒岩橋	○ 鬼怒岩橋 (R121BP)			バリアフリー化改修	県
交通対策	コミュニティ交通	ダイアルバスのコミュニティ・バスへの展開		コミュニティ電車等の検討	民間 町支援
	自動車交通	**車対応拠点施設の整備 (再掲)**	一般駐車場の整備	旅館ホテルの駐車場の共同利用化	町・民間

○幹線道路：歩道有り　×幹線道路：歩道なし　△区画道路等　■歩行者専用道路

８．鬼怒川温泉駅前の玄関口にふさわしい賑わいの再生

名　称	目標設定と実施内容			事業主体
	当面：～２・３年	短期：～５年	長期：～１０年	
	駅前のイメージ一新	**駅前の賑わいの再生**	**駅前の賑わいの増幅**	
駅前広場改修	**駅前広場改修整備**			町
景観形成	**文化会館外観改修**			町
		駅前広場周辺建物修景整備		民間 町支援
	電線類地中化			町
インフォメーション機能	**文化会館への観光情報センター機能整備**			町
	駅舎の改修・インフォメーション機能整備			東武鉄道 町
賑わい形成	**駅前広場の定期的なイベント開催** 店舗の営業内容改善（営業時間、品揃えなど）	チャレンジショップ等店舗育成事業 旅館ホテルとの連携強化	多様な業種の誘致	民間
地元参画の計画策定	景観形成計画	景観形成のルール化		町・民間
	商店街活性化の検討開始			町・民間

９．旧温泉街の風情と賑わいの再生

名称	目標設定と実施内容			事業主体
	当面：～２・３年	短期：～５年	長期：～１０年	
	人々を街へ誘い出す	**もっと楽しんでもらう**	**温泉街に風情を取り戻す**	
景観形成	**手づくり行灯イベントの継続実施、ＰＲ強化**	昼間の景観づくり（花壇など）	景観整備事業の実施 (ファサード、看板など)	民間 町支援
空店舗活用・店舗育成	**空店舗活用実験の継続実施**	空店舗を活用した店舗育成事業（地元産品等）	多様な業種の誘致 文化施設等の整備	民間 町支援
賑わい形成	**ふれあい橋での定期的イベント開催**	旅館ホテルとの連携強化		民間 町支援
	車対応拠点施設の整備（別掲）	くろがね橋拠点施設の整備（別掲）		町・民間
インフォメーション機能 交通機能	インフォメーション拠点の整備（くろがね橋左岸広場、ふれあい橋左岸広場など)	コミュニティ交通ターミナルの整備	ふれあい橋右岸の広場機能（まちかど核）の形成	町
地元参画の計画策定	景観形成形成の検討開始		景観形成のルール化	町・民間
	商店街活性化の検討開始			町・民間

１０．鬼怒川公園駅前の賑わい形成

名称	目標設定と実施内容			事業主体
	当面：～２・３年	短期：～５年	長期：～１０年	
	地元の組織体制をつくる	**環境を生かした街づくり**	**利用環境の充実**	
景観形成			景観整備事業の実施 (ファサード、看板など)	民間 町支援
店舗育成		店舗育成事業の実施（地元産品等）	多様な業種を誘致	民間 町支援
インフォメーション機能 交通機能	インフォメーション機能の整備（駅舎内など）	コミュニティ交通ターミナルの整備 一般駐車場の整備	鬼怒川公園へのアクセスの改善（自由通路等）の整備	町
ロープウェイ周辺		花の山・遊歩道の整備	駐車場への進入路の改善	町・民間
地元参画の計画策定	景観形成形成の検討開始		景観形成のルール化	町・民間
	商店街活性化の検討開始			町・民間

■鬼怒川温泉再生の施策

1．風光明媚を生かし、温泉街の街並みを再生する景観の誘導

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中には表記なし）

1）景観法の導入
- 景観計画策定に向けた調査
- 景観形成に向けた地区毎の地元検討の開始

2）景観形成の実施

（1）渓谷美の維持・育成
- 既存斜面林の除草、育成

（2）温泉街らしい風情のある街並み
（各地区毎に検討・実施することとし、各地区毎に記載）

（3）会津西街道などの沿道景観整備

2．温泉街らしい賑わい・風情の再生

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中には表記なし、ただし拠点施設は図面中にも記載）

1）外湯・湯めぐりなど温泉の楽しみの提供
- 旅館ホテルの内湯開放による「湯めぐり」の実施とＰＲ
- 駅前広場への足湯整備
- 鬼怒川公園岩風呂のＰＲ

2）拠点施設の整備

（1）車対応拠点施設（徳泉閣跡地）
- 用地交渉・整備計画策定、施設整備（一般駐車場、インフォメーションなど）

（2）くろがね橋拠点施設（水明館跡地周辺）
- 用地交渉・整備計画策定

3）公共空間の賑わい利用のルール化
- 関係機関との協議、明文化

3．さびれた印象を与える遊休地、遊休施設の修復・活用

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（廃業・休業旅館については「２．」の拠点施設参照）

1）敷地条件整序
- 方策検討、実施体制整備

2）廃業・休業旅館等の大規模なもの
- 修景・美化（撤去、整頓、清掃、緑化など）

3）空店舗等の小規模なもの
- 修景・美化（古看板撤去、整頓、清掃など）

4．宿泊客のニーズに応え、街づくりに貢献する旅館ホテルの改革

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中には表記なし）

1）旅館ホテルの街づくりへの貢献
- ロビーの開放や喫茶店営業の実施による店舗不足の補完

2）特色ある旅館ホテル
（各旅館ホテル毎に個性ある施設づくりやサービスの実施に向けて改革を実施）

5．様々な周遊観光が楽しめる環境作り

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中には表記なし）

1）ツアーの実施
- ミニツアー実験の実施

2）福島空港利用
- ツアーバス型の福島空港利用実験の検討

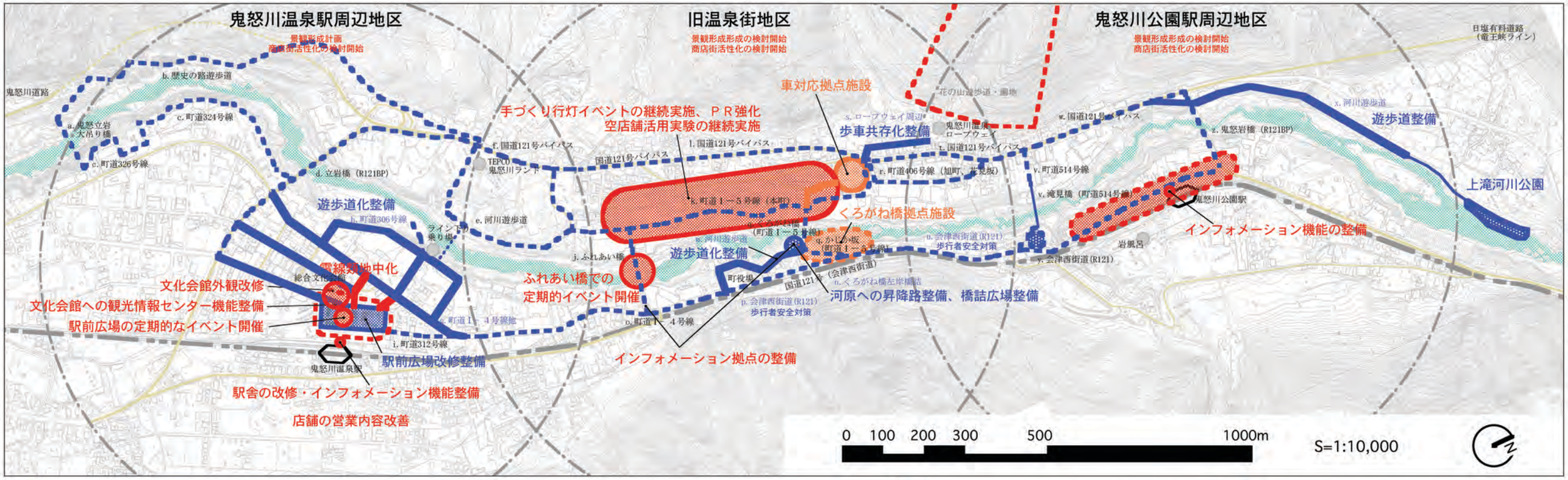
3）インバウンド対策
- 多言語表記、通訳など受け入れ態勢の検討・実施

6．インフォメーション機能の充実

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中には表記なし）

1）情報発信対策
- 情報の一元化、評価、発信方策の検討
- 既存空間を活用した情報発信の強化

2）バリアフリーマップの作成
- バリアフリーマップの作成



7．温泉街の回遊ネットワークの整備

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中に実施内容を記載、交通対策は図中に表記なし）

a. 鬼怒立岩大吊り橋 ■
b. 歴史の路遊歩道 ■
c. 町道326,324号線 △
d. 立岩橋(R121BP) ○
e. 河川遊歩道 ■
f. 国道121号バイパス ○
g. 町道１－４号線他 ○
- 歩道等高質化整備

h. 町道306号線 △
- 遊歩道化整備

i. 町道312号線 △
j. ふれあい橋 ■
k. 町道１－５号線(本町) △
l. 国道121号バイパス ○
m. 河川遊歩道 ■
- 遊歩道化整備

n. くろがね橋左岸橋詰 ■
- 河原への昇降路整備
- 橋詰広場整備

o. 町道１－４号線 ○
p. 会津西街道(R121) ×
- 歩行者安全対策

q. くろがね橋(町道１－５号線) △
r. 町道406号線(旭町,花見坂) △
s. ロープウェイ周辺 △
- 歩車共存化整備

t. 国道121号バイパス ○
u. 会津西街道(R121) ×
- 歩行者安全対策

v. 滝見橋(町道514号線) ■
w. 国道121号バイパス ○
x. 河川遊歩道 ■
- 遊歩道整備
- 上滝河川公園整備

y. 会津西街道(R121) ○
z. 鬼怒岩橋(R121BP) ○

交通対策

（1）コミュニティ交通
- ダイアルバスのコミュニティ・バスへの展開

（2）自動車交通
- 車対応拠点施設（再掲）

○ 幹線道路：歩道有り
× 幹線道路：歩道なし
△ 区画道路等
■ 歩行者専用道路
当面の整備
短期～中長期
整備済道路等

8．鬼怒川温泉駅前の玄関口にふさわしい賑わいの再生

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中に実施内容を記載）

1）駅前広場改修
- 駅前広場改修整備

2）景観形成
- 文化会館外観改修
- 電線類地中化

3）インフォメーション機能
- 文化会館への観光情報センター機能整備
- 駅舎の改修・インフォメーション機能整備

4）賑わい形成
- 駅前広場の定期的なイベント開催
- 店舗の営業内容改善

5）地元参画の計画策定
- 景観形成計画
- 商店街活性化の検討開始

9．旧温泉街の風情と賑わいの再生

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中に実施内容を記載）

1）景観形成
- 手づくり行灯イベントの継続実施、ＰＲ強化

2）空店舗活用・店舗育成
- 空店舗活用実験の継続実施

3）賑わい形成
- ふれあい橋での定期的イベント開催
- 車対応拠点施設（再掲）

4）インフォメーション機能・交通機能
- インフォメーション拠点の整備

5）地元参画の計画策定
- 景観形成形成の検討開始
- 商店街活性化の検討開始

１０．鬼怒川公園駅前の賑わい形成

※色文字：当面（～２・３年）の実施内容（図中に実施内容を記載）

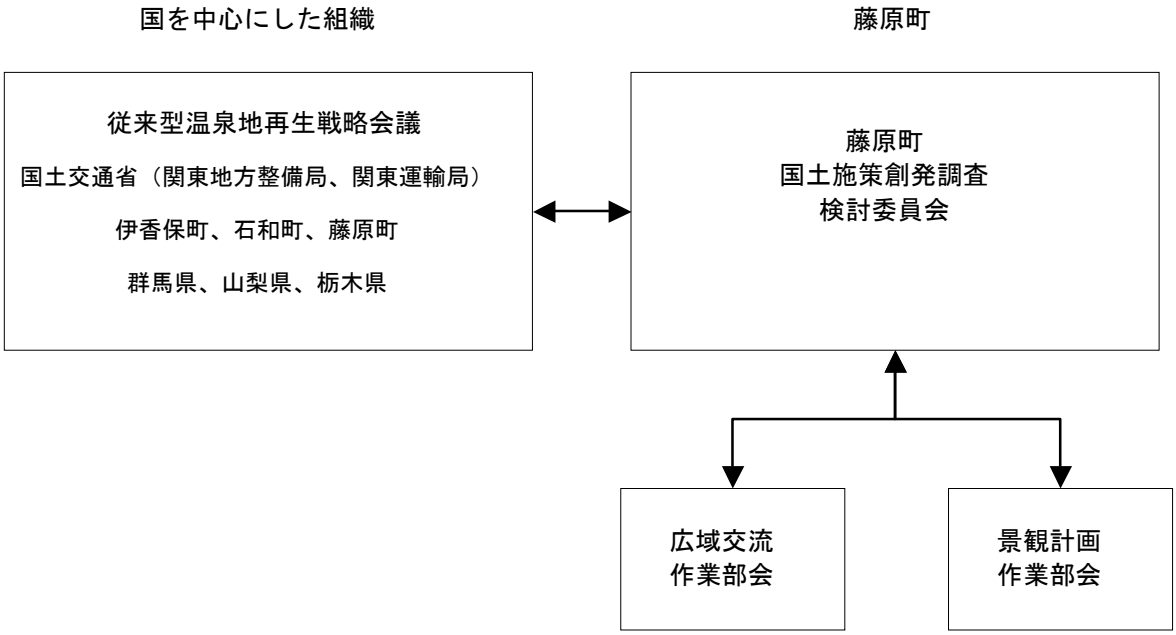
1）景観形成
2）店舗育成
3）インフォメーション機能・交通機能
- インフォメーション機能の整備（駅舎内など）

4）ロープウェイ周辺
5）地元参画の計画策定
- 景観形成形成の検討開始
- 商店街活性化の検討開始

当面の整備.
短期～中長期

○参考情報

１．検討体制



２．検討スケジュール

	会　議			フィールドワーク				
	検討委員会	広域交流作業部会	景観計画作業部会	宿泊客アンケート	経営者アンケート	台東区アンケート	福島空港利用ツアー	空店舗活用社会実験
１２月	１２月２日 第１回							
		１２月１０日 主要メンバーと非公式に討議（合同）						
１月		１月１２日 第１回（合同）						１月１２日 第１回 ワークショップ
	１月１７日 第２回							１月１５日 店舗オープン
				１月２８～ ３０日 アンケート実施	１月２８日～ ２月６日 アンケート実施	１月３０日～ ２月６日 アンケート実施		１月２６日 第２回 ワークショップ
２月								２月１日 店舗１店の 活動強化
			２月１０日 第２回					２月上旬 宣伝活動強化
		２月１７日 第２回						
	２月２１日 第３回						２月１９～ ２１日 ツアー実施	２月下旬 第３回 ワークショップ

３．委員会名簿

（１）国土施策創発調査検討委員会

	氏　　名	役　　職	備考
1	安島　博幸	立教大学観光学部観光学科教授	委員長
2	宮脇　勝	千葉大学工学部都市環境システム学科助教授	
3	陣内　雄次	宇都宮大学教育学部家政教育講座助教授	
4	藤崎　慎一	㈱地域活性プランニング代表取締役	
5	船曳　寿男	地元代表（地域再生マネージャーサポーター）	
6	高橋　幸男	地元代表（地域再生マネージャーサポーター）	
7	筒井　巌	地元代表（地域再生マネージャーサポーター）	
8	小野　真	地元代表（鬼怒川・川治温泉旅館協同組合青年部）	
9	奥村　祐一	地元代表（鬼怒川・川治温泉旅館協同組合青年部）	
10	塩生　勇一	地元代表（藤原町地域再生推進委員会長）	
11	綾部　光明	交通関係業代表（東武鉄道㈱経営企画部経営企画課長）	
12	堀川　光一	藤原町収入役（藤原町地域再生本部長）	

※オブザーバーとして特定地域プロジェクトチーム（国）、地域再生プロジェクトチーム（県）が参加

（２）広域交流作業部会名簿

	氏　　名	役　　職	備考
	藤崎　慎一	㈱地域活性プランニング代表取締役	アドバイザー
1	高橋　幸男	地元代表（地域再生マネージャーサポーター）	部会長
2	船曳　寿男	地元代表（地域再生マネージャーサポーター）	
3	小野　真	地元代表（鬼怒川・川治温泉旅館協同組合青年部）	
4	中村　武彦	地元代表（鬼怒川・川治観光施設協会副会長）	
5	沼尾　敏司	地元代表（鬼怒川・川治温泉観光協会宣伝部長）	
6	綾部　光明	交通関係代表（東武鉄道㈱経営企画部経営企画課長）	
7	内藤　孝一	交通関係代表（東武ダイヤルバス㈱専務取締役）	
8	猪瀬　勝也	商工関係代表（日光地区商工会議鬼怒川事務所長）	
9	本郷　昌孝	旅行会社代表（㈱JTB 宇都宮支店副支店長）	
10	亀山　哲雄	旅行会社代表（東武トラベル㈱国内仕入企画副部長）	
11	荒川　正利	栃木県企画部交通対策課長補佐	
12	高久　啓	栃木県商工労働観光部観光交流課長補佐（県 PT）	
13	大橋　忍	日光市商工観光課長	
14	湯澤　長久	栗山村観光農林課長	
15	八木澤克行	藤原町企画財政課長	

（３）景観形計画作業部会名簿

	氏　　名	役　　職	備考
	宮脇　勝	千葉大学工学部都市環境システム学科助教授	アドバイザー
1	筒井　巌	地元代表（地域再生マネージャーサポーター）	部会長
2	奥村　祐一	地元代表（鬼怒川・川治温泉旅館協同組合青年部）	
3	大島　裕人	地元代表（鬼怒川・川治観光施設協会役員）	
4	大網　和男	地元代表（本町地域活性化委員会長）	
5	佐藤　三男	地元代表（温泉駅前商店会長）	
6	丸山　忠雄	地元代表（星ヶ丘商店会代表）	
7	倉持　和司	栃木県商工労働観光部観光交流課主幹（県 PT）	
8	入野　好市	栃木県林務部自然環境課長補佐	
9	碓氷　善美	栃木県土木部都市計画課長補佐（県 PT）	
10	大塚　晴久	栃木県土木部建築課建築指導班長	
11	沼尾　芳訓	藤原町建設課長	

（４）事務局

	氏　　名	役　　職	備考
1	作道　今朝夫	藤原町観光課長	
2	沼尾　鬼子造	藤原町観光課地域再生推進室長	
3	沼尾　教明	藤原町観光課地域再生推進室主幹	
4	柴田　信夫	藤原町観光課地域再生推進室主事	

（５）特定地域プロジェクトチーム（国）

	氏　　名	所　　属・役　　職	備考
1	新宅　幸夫	国土交通省関東地方整備局企画部広域計画課長	
2	廣江　奈津子	国土交通省関東地方整備局建政部計画管理課長	
3	東　　智徳	国土交通省関東地方整備局建政部都市整備課長	
4	宮本　和宏	国土交通省関東地方整備局建政部住宅整備課長	
5	後藤　崇輔	国土交通省関東運輸局企画振興部企画課長	
6	狩野　裕治	国土交通省関東運輸局企画振興部観光振興課長	
7	島田　昌司	国土交通省関東運輸局栃木運輸支局企画輸送課長	
8	伊藤　勇三	環境省北関東地区自然保護事務所公園保護科長	

（６）地域再生プロジェクトチーム

	氏　　名	所　　属・役　　職	備考
1	小室　康雄	総務部市町村課主幹	
2	常盤　峰之	総務部市町村課管理担当課長補佐	
3	板橋　昭二	総務部市町村課財政担当課長補佐	
4	石田　康雄	企画部地域振興課主幹　　（チームリーダー）	
5	神山　保	企画部地域振興課地域振興担当課長補佐	
6	根岸　昭夫	企画部地域振興課地域整備推進担当課長補佐	
7	五家　真佐江	企画部地域振興課地域整備推進担当副主幹	
8	杉本　光久	企画部地域振興課地域振興担当主査	
9	須賀　崇夫	企画部地域振興課地域整備推進担当主査	
10	齋藤　利也	企画部地域振興課地域整備推進担当主査	
11	倉持　和司	商工労働観光部観光交流課主幹	
12	高久　啓	商工労働観光部観光交流課観光・まちづくり担当課長補佐	
13	鱒渕　繁義	商工労働観光部観光交流課観光・まちづくり担当主査	
14	碓氷　善美	土木部都市計画課課長補佐	
15	君島　康則	土木部都市計画課市街地整備担当副主幹	
16	村上　立夫	土木部都市計画課市街地整備担当副主幹	

４．フィールドワーク実施概要

１）アンケート調査

（1）宿泊客へのアンケート（1/28-30 配布 1,000／回収 638　63.8%）

（2）旅館経営者への　〃　（1/28-2/6 配布 42　／回収 19　45.2%）

（3）台東区住民への　〃　（1/30-2/6 配布 600 ／回収 165　27.5%）

（4）結果

①鬼怒川温泉の強み

・風光明媚な自然環境、宿泊客・台東区の温泉・施設への高い評価、東京に近く周辺観光地やテーマパークの揃う立地

②鬼怒川温泉の弱み

・温泉地らしい風情に欠ける（温泉地には風情を求める）、街なかに名所旧跡がない、湯めぐりができない、活気がなく魅力あるお店がない

２）福島空港利用モニターツアー

（1）2/19-21 九州在住の７名のモニターにより福島イン羽田アウトで実施

（2）主な意見

・旅行の目的は、鬼怒川温泉でなく、日光である。

・直通バスよりツアーバスの方が望ましい。

３）空店舗を活用した回遊促進のための社会実験

（1）空店舗とふれあい広場を活用したゲームコーナーの開催

・1/15 から金・土・日で、空店舗「ゲームコーナー」（入場 523 人 /20 日）を実施。

（2）本町地域活性化委員会の活発化と、地域的なとりくみへの波及

・ふれあい広場で「手づくり工房」（入場 497 人 /月、地元 NPO）、「なつかしの昭和鬼怒川展」を同時に実施。

・町内では初のイベントとして、従来から制作していた手づくり行灯を増設し、「桃行灯ひなまつりフェスタ」（参加 250 人以上/2 日）を開催。

・地域再生マネージャー事業「鬼怒太物語（宝さがし）」とも連携、「湯遊行灯まつり」として一体的に企画調整・ＰＲ連携を実施。

ゲームコーナー

桃行灯ひなまつりフェスタ